

高砂市議 一人会派 緑の党グリーンズジャパン

井奥まさきの市政ニュース

2016. 9・10

(月刊+：9月10月合併号 通算109号)



[自宅] 兵庫県高砂市荒井町新浜 2-19-9

Tel 079-444-2343 Fax 444-2418

E-mail:iokuioku3@gmail.com

http://ioku3.sakura.ne.jp 新ブログも

ツイッター：@ioku3 Facebook・LINE: 井奥雅樹

「井奥まさき」
でweb検索を

9月議会

3期目を迎えた登市長の打ち出した政策を2つ支持、1つ批判

高砂市議 井奥まさき

「4者」敗北の市長選挙をへて 3期目をむかえた登市長

○市長選挙の結果	40.41%
登幸人	16725
中西一智	6997
生島洋一	5822
*参考 2012年	30.7%
登幸人	16642
山本りゅうすけ	6092

4月の市長選挙では私は「どの陣営も応援せず市民に選択肢を示す活動に取り組む」という方針でのぞみました。結果は上のようになりました。6月の一般質問では私は「4者敗北」と総括しました。

準備不足が否めず半分程度の票しかなかった新人2陣営はもちろんのこと、現職の登市長も事実上

の信任投票であった前回市長選挙程度の票しかとれず厳しい結果でした。約10%アップした投票率はすべて新人2候補に回ったわけですから、2期8年間の成果や市議14人（新政会6・公明3・民主2・明風会3）の効果も薄く、「敗北」と言えます。

一方で日頃は登市政を批判しながら候補者を立てきれなかった私をはじめとする人々も「不戦敗」と言えます。棄権が多かったことも含め、市民の厳しい目に「4者敗北」だったと言えます。

3期目就任いきなりの「大盤振る舞い」 財源に不安

5月の臨時議会で3期目を迎えた登市長は政策の「大盤振る舞い」

を表明しました。2新人候補の政策も取り込み、とにかく「隙をつくらない」というのがコンセプトのような政策群です。新人市長ならともかく、2期8年間の市政の流れを唐突に無視するようなバラマキはいただけません。

9月議会ではそのうちの3つが具体的に予算を伴って提案されました。

私は一つずつの政策を吟味した結果「2つ支持、1つ批判」の立場で論戦を行いました。

必要な財源や政策の整合性をチェックしつつ、「いいものは支持、悪いものは批判」を続けていきたいと思っています。

市庁舎

【支持】市庁舎は現地建て替えで平成33年〔2021年〕度完成へ

市長選挙の大きな争点の一つであったにもかかわらず、奇妙なことに市長選で登「支持派」の議員から「移転建て替え」への誘導質問が続きました。議論を深めることは歓迎しますが、「移転建て替え」の具体案になると「明姫幹線南地区」「高砂文化会館」「米田多目的広場」など質問者によってまちまちでした。

私自身は市長選の頃から費用が少なく済む「現地耐震補強」をもっと議論できたらと思っていました。とはいえ、4月に起きた熊本大震災で耐震対策が遅れて崩壊した市庁舎(熊本県宇土市)があっ

たことを考えると残された時間は限られていると判断しました。そこで、最終的に「現地建て替え」を支持しました。

移転建て替えには「市議会の特別多数議決(2/3以上の同意)」が必要でもあり、建設時間も「移転建て替え」には「現地建て替え」よりさらに数年の時間が必要です。移転先候補が複数の「移転建て替え」議論を住民参加で煮詰める時間はないと判断しました。

しかし、建設費60億円を超える大型事業です。これから設計公募に入りますが、「治水など防災面での対策」「建設後の維持

費(修繕費、光熱水費)抑制」「スペースの有効活用(仕切りの柔軟性など)」「全体の建設費抑制(無駄な渡り廊下計画の廃止など)」といったチェックポイントを設定し、市民の納得がいくような設計案にすべきだと提言しました。

また、現地建て替えになったことを直接市長が市民に説明をすべき、とも提言しましたが、これは拒否され続けています。部下が「出前学習会」などで説明するとのことでした。

案づくりの過程から結果まで「市民参加」が不十分な議論となっていることが残念です。

■来年4月から「こども未来部」を設置することも9月議会で提案されました。賛成しましたが、人事も含め組織いじりが多いことは少し気になります。



アニメやドラマではなんでもなんに親が口すっぱく「宿題をなさい」と言っているのか不思議でしたが、小学生の子どもを持ってよくわかりました。

低学年から高学年に上がるにつれてだんだんと宿題も増えてきます。保護者の前で本読みとか昔とは違う宿題も増えてきました。習い事や塾で時間も限られてきて、塾の宿題もあります。

特に小四の息子は私に似ているのか、追い込まれないと宿題をし

ない、という悪いクセがあります。学校帰りに「宿題は？」「うん」、夕食後に「宿題した？」「うん」、そして風呂前に「宿題したの」「うん」とすべて生返事をしてテレビを見たり、ゲームをしていて就寝。朝7時にあわてて登校前に宿題をしているのを見て「お前なあ」と言いたくなります。

小六の娘はさすがにテキパキとはしているのですが、こちらは宿題前に突然片付けをはじめ、そして片付けで見つけた思い出の本や

アルバムに夢中になるという典型的な失敗パターンをしでかします。

「お前らいい加減にしろ」と私が口うるさく言うのに対して、最近反撃も増えてきました。

「そんなことを言って、パパも最近ニュースを出していないね」と息子の反撃。

だからちゃんとニュースを出しているだろ、君らも宿題をしろ！

中学校給食

【支持】中学校給食は平成31年〔2019年〕2学期よりセンター方式で実施 ～現在の小6より下が対象、中3二学期の年から～

市民待望の中学校給食がようやく実施の方向で進み始めました。現在の小学校6年生が中学3年生に通う頃の2学期からの実施が表明されています。9月議会では工事などを進める予算が可決。

喜ばしいことですが、「自校方式」でなく「センター方式」です。ここに不安を感じる保護者の方もいることでしょう。

特に手続きには大きな失敗がありました。登市長が設置する「検討委員会」では委員全員の全会一致で「自校方式がのぞましい」と

判断しています。その結果を今年2016年に入って突然に覆した形になっています。

理由として（1）校舎によっては給食調理場設置のスペースがとれない（2）当初計画よりも早期に中学校給食を実現をあげていますが、ならばもっと早く見直し議論を行うべきでした。当時の検討委員からも不満の声を聞きました。登市政と教育委員会の失態と言えます。

しかし、竜山中学校の横に給食センター用地を確保できたという

ことで、教育施設を犠牲にせず、早期に給食を実施するめどがつかれました。また、狭い高砂市内ということで15分程度で配送も行えます。

「食中毒時を起こさないシステム」「アレルギー食対応」「食育の充実（例えばセンターでの定期的な試食会の実施、栄養士の市単独配置）」といった形で市民の「センター方式」への不安をおさえ、充実した「高砂方式」の質の良い中学校給食を実現するよう引き続きチェックをしていきます。

駐車場

【批判】旧工楽邸前 なぜ民間の土地を買って市の駐車場に？

9月議会で旧工楽邸前に駐車場を設置するという提案がありました。（1）2台の大型バス駐車スペース（2）10台程度の普通車駐車スペース（3）雁木展示と説明がありました。目的も（1）文化財・旧工楽邸来客用（2）週1000人以上の町内観光客用＜特に大型バス＞（3）景観保全や雁木展示（4）イベント時のスペー

スと複数の理由を掲げています。

しかし、この民間土地は1年前から現在の持ち主に売買契約で変更されたばかり。「何台大型バスが来町しているか」のデータも持たずに土地購入だけ先行。（私の指摘で調査をしたところ、定期的なバスツアー会社はゼロと判明）

週1000人の観光客目標も客観データもなく過大です。

なのに今回の調査予算に加え、12月議会にはあわてて駐車場用地買収費用（数千万円か？）を予算化しようとしています。

議会では「観光実数の調査」「工楽家子孫との協議」など10個もの注文がつかれました。投資効果のないところに市の税金をつぎ込む余裕は今はありません。今後も徹底追及していきます。